

播磨地域障害サービス第三者評価
評価結果報告書

施設名 : てくてく

(放課後等デイサービス)

評価実施期間 2016年5月12日 ～ 2016年10月31日

実地(訪問)調査日 2016年7月5日

2016年9月26日

特定非営利活動法人

播磨地域福祉サービス第三者評価機構

播磨地域障害サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名 称	特非) 播磨地域福祉サービス第三者評価機構	
所 在 地	姫路市安田3丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階	
評価実施期間	2016年 5月 12日～ 2016年 10月 31日 (実地(訪問)調査日 2016年 7月 5日)	
評価調査者	HF05-1-0023 HF05-1-0033 HF10-1-0010 HF15-1-007	

※契約日から評価
結果の確定日まで

2 福祉サービス事業者情報

(1) 事業者概要

事業所名称： (施設名) てくてく	種別： 放課後等デイサービス
代表者氏名： (管理者) 吉川 博	開設(指定)年月日： 昭和(平成)25年 11月 20日
設置主体：社会福祉法人 緑樹福祉会 経営主体：社会福祉法人 緑樹福祉会	一日定員(契約人数)28.6.現在) 1日 10名
所在地：〒 678-0201 兵庫県赤穂市塩屋字奥田 2191	
電話番号：0791-42-2802	FAX番号：0791-42-2804
E-mail： pukupukutekuteku@wonder.ocn.ne.jp	ホームページアドレス： http://ryokujufukushi.web.fc2.com/index.html

(2) 基本情報

<p>理念・基本方針：</p> <p>福祉サービスを必要とする方が、西播磨地域において安心かつ安定した自立生活を送ること。また、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会をつくっていくこと。それによって社会全体の福祉を増進させ、ともに生きる地域社会づくりに寄与することです。</p> <p>力を入れて取り組んでいる点：</p> <p>赤穂市手をつなぐ育成会が立ち上げた施設なので利用者さん、保護者の立場になって考えることを、最優先しています。利用者さんの生活環境、一日の生活リズムを配慮して、利用者さん、保護者の方に接しています。</p> <p>地域の社会資源が豊富なので、連携したサービス計画を立てる事ができます。</p>						
専門職員の配置 ※()はうち非常勤職員を明示	職 種	人 数	職 種	人 数	職 種	人 数
	管理者	1 名 (0)	指導員	6名 (6)		名 ()
	児童発達支援管理責任者	1 名 (0)		名 ()		名 ()
	児童指導員	1 名 (0)		名 ()		名 ()
<p>施設の状況</p> <p>赤穂市手をつなぐ育成会が中心となり、平成20年12月にわかば園(生活介護・就労継続支援)を立ち上げ、平成25年2月に指定短期入所事業所「ぷくぷく」を開設。赤穂市の家族からの要望で地域に密着した放課後等デイサービスとして、「てくてく」を平成25年11月に開設しました。</p>						

3 評価結果

○ 総評

◇特に評価の高い点

○ 地域の方々との交流と連携を通して、地域に根差した事業運営が行われています。

事業所の方針として地域との関わりを大切にされており、地域の自治会に加入するとともに、利用者と地域が交流を広げることを目的とし、自治会の方々と菜園の収穫や干支の小物づくりなどを通して、地域との交流を行っています。また、行政をはじめ特別支援学校及び手をつなぐ育成会等との連携・情報交換が積極的に行われている他、西播磨地域における放課後等デイサービスのネットワークに参画するなど、地域に根差した事業運営が行われています。

○ 個別支援をもとに利用者の意思を尊重した見守り支援が行われています。

事業所では、図や写真を用いた個別のツールを作成するなど、個々の状態を考慮して、利用者のコミュニケーションを高める取り組みが実施されています。また、日常において必要な介助や支援方法の見直しが随時行われており、見守りと支援の体制が確立しています。

○ 各場面において、標準化されたサービスが確立しています。

小規模の施設ですが、法人のマニュアルをベースに各場面における多様な支援マニュアルを整備し、個人のカヤ年齢に応じて個別に細かい支援が行われています。今後これらのマニュアルを活用することで、毎日、利用者の変動の多い事業所の特徴に対応できることが可能です。

◇特に改善を求められる点

○ 今後の事業運営を具体的に示した中・長期事業計画を策定していくことが課題です。

社会の情勢や利用者のニーズに対応するためには、中・長期的な視点に立って、実施する福祉サービスの内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等を具体的に示した事業計画を策定していくことが重要です。その中でも特に対人サービスである福祉事業においては、次のリーダーを育てる、専門知識を延ばすといった個別育成計画を策定することで、職員の将来展望やスキルアップを図り、職員の質と働きがいを向上させるような取り組みが重要です。

○ プライバシーの保護等利用者尊重の姿勢をサービスに反映していくことが重要です。

事業所の活動について、利用者の声を聞いて反映する取り組みは行われていますが、利用者のプライバシーの保護や利用者満足の向上など、利用者本位の取り組みとしての位置づけが明確ではありません。現在取り組んでおられる支援について、利用者本位の視点から整理され、意見や苦情の分類を明確にするなど、さらに利用者尊重の姿勢を各サービスへ反映していくことが重要です。

○ 子育て支援の視点からの家族支援の位置づけを明確にしていくことが求められます。

放課後デイサービスでは、子どもの発達を支援するとともに、家族が障害や制度を理解し、子どもの暮らしの環境を整備していくことが必要です。今後は、子育て支援の視点から、子どもの障害の受容や制度の活用など家族への支援の充実が望まれます。

○ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

放課後等デイサービス事業を開始して2年が過ぎ、福祉サービスの質の向上を目指して取り組んでいかなければならないと漠然とは思っていても、具体的に何をしていけばよいのか明確になっていませんでした。

今回、サービス評価を受審したことにより、重点的に取り組んでいく課題が明確になり、従業員全員に共有されました。

- 各評価項目に係る第三者評価結果 (別紙1)
- 各評価項目に係る評価結果グラフ (別紙2)

評価細目の第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

	第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針を確立している。	
I-1-(1)-① 理念を明文化している。	○a・b・c
I-1-(1)-② 理念に基づく基本方針を明文化している。	○a・b・c
I-1-(2) 理念や基本方針を周知している。	
I-1-(2)-① 理念や基本方針を職員及び利用者やその家族等に周知している。	a ○b・c

特記事項

法人の理念・基本方針を事業所に掲示するとともに、パンフレットや機関誌に記載し、色々な機会において周知しています。
 今後は、理念や基本方針を職員及び利用者やその家族等に分かりやすく周知していくための取り組みが必要です。

Ⅰ-2 計画の策定

	第三者評価結果
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画を明確にしている。	
I-2-(1)-① 中・長期計画を策定している。	a・b ○c
I-2-(1)-② 中・長期計画を踏まえた事業計画を策定している。	a・b ○c
I-2-(2) 計画を適切に策定している。	
I-2-(2)-① 計画の策定を組織的に行っている。	a・b ○c
I-2-(2)-② 計画を職員や利用者に周知している。	a・b ○c

特記事項

各年度の事業計画を法人事務局で立案し、理事会・評議会において具体的に策定されています。またその中には、地域の要望により、グループホーム設立の計画が盛り込まれていました。
 今後は、中・長期的な目標（ビジョン）に対して、実施する福祉サービスの内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等を具体的に示した事業計画を策定されるとともに、利用者や家族等に理解しやすいような周知方法の工夫が求められます。

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果
I-3-(1) 管理者の責任を明確にしている。	
I-3-(1)-① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a・b (c)
I-3-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b (c)
I-3-(2) 管理者のリーダーシップを発揮している。	
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	a (b)・c
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a・b (c)

特記事項

管理者は今年度に就任されたところで、児童発達支援管理責任者からの報告を受け、サービスの質の向上や業務改善に関し、把握していることが伺えます。
 今後は、組織における管理者の役割と責任を明確にすることで、より良いサービスに向けてリーダーシップが発揮できる組織づくりを行っていくことが重要です。

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 経営状況の把握

	第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	
Ⅱ-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境を的確に把握している。	a (b) c
Ⅱ-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組を行っている。	a (b) c
Ⅱ-1-(1)-③ 外部監査を実施している。	a・b (c)

特記事項

事業経営を取り巻く環境は、行政をはじめ特別支援学校及び手をつなぐ育成会等との情報交換を通じて、事業を取り巻く状況や地域の状況を把握されています。また、経営状況については、月次報告や利用状況を分析し、法人に報告していることが伺えました。
 今後、把握した経営環境や分析して明らかになった課題を、中・長期計画や各年度の事業計画に反映して明確にしていくことが望まれます。

Ⅱ-2 人材の確保・養成

	第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 人事管理の体制を整備している。	
Ⅱ-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランを確立している。	a (b) c
Ⅱ-2-(1)-② 人事考課を客観的な基準に基づいて行っている。	a・b (c)
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮している。	
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みを構築している。	a (b) c
Ⅱ-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。	(a) b・c
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制を確立している。	
Ⅱ-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示している。	a・b (c)
Ⅱ-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画を策定し、計画に基づいて具体的な取組を行っている。	a (b) c
Ⅱ-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	a (b) c
Ⅱ-2-(4) 実習生の受け入れを適切に行っている。	
Ⅱ-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している。	a・b (c)
Ⅱ-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取組を行っている。	a・b (c)

特記事項

人材の確保・養成については、個人面談を通して職員の意見を聞くことによって、働きやすい環境をつくるための配慮に取り組んでいることは伺えますが、組織的な人事管理の体制は確立されていません。また、外部研修の参加や内部での勉強会を実施することによって、職員の質の向上に向けた取り組みが実施されていますが、具体的な研修計画の策定には至っていません。

今後は、具体的な人事計画（プラン）や職員一人ひとりに研修計画を策定することにより、組織的な人材の確保と養成が図られることが求められます。

II-3 安全管理

	第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取組を行っている。	
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制を整備し機能している。	a・b・c
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a・b・c
II-3-(2) 積極的に防災に関する取組を行っている。	
II-3-(2)-① 防災や安全確保のための設備の工夫を行っている。	a・b・c
II-3-(2)-② 災害時（火事、地震、台風など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a・b・c

特記事項

安全管理の体制は、法人内で各種危機管理マニュアルを整備し、安全に関する取り組みが実施されています。また、予防の観点からは、ヒヤリハットによる事例収集や、災害マニュアルに基づいて定期的な避難訓練が行われていることが伺えました。

今後は、施設における安全確保のための体制を整備するとともに、近隣地域と協力体制を確立することによって、職員・利用者・地域が一体となった安全管理の取り組みが望まれます。

II-4 地域との交流と連携

	第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係を適切に確保している。	
II-4-(1)-① 利用者地域との関わりを大切にしている。	a・b・c
II-4-(1)-② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a・b・c
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a・b・c
II-4-(2) 関係機関との連携を確保している。	
II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	a・b・c
II-4-(2)-② 関係機関等との連携を適切に行っている。	a・b・c
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握し、事業・活動を行っている。	a・b・c

特記事項

地域との関わりを大切にされており、地域の自治会に加入するとともに、利用者地域が交流を広げることを目的とし、自治会の方々と菜園の収穫や干支の小物づくりなどを通して、地域との交流を行っています。

関係機関との連携では、行政をはじめ特別支援学校及び手をつなぐ育成会等との連携・情報交換が行われている他、西播磨地域における放課後等デイサービスのネットワークに参画しています。

今後は、地域の福祉ニーズを把握し、障害や子育ての知識を還元していくことで、更に地域の資源としての取り組みの充実が望まれます。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢を明示している。	
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。	
Ⅲ-1-(2)-① 利用者やその家族等の意向の把握と満足の上昇への活用に取り組んでいる。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制を確保している。	
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みを確立し、十分に周知・機能している。	a・(b)・c
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a・(b)・c

特記事項

利用者本位の福祉サービスは、利用者尊重の姿勢が倫理要領やガイドラインに明示され、会議の中で利用者尊重や身体拘束、虐待防止について学習し、共通理解を持つための取り組みが行われています。また、利用者の相談や意見は、日々の連絡帳や送迎時の保護者とのコミュニケーションによって随時聞き取るとともに、保護者会を定期的を開催することで、意向を汲み取っています。

苦情解決の体制は整備されていますが苦情の実績は少なく、施設内に仕組みを掲示する取り組み等、利用者に分かりやすい配慮が望まれます。

今後は、利用者の意見や苦情の対応マニュアルを整備していくことや、意見や苦情の分類を明確にするなど、さらに利用者尊重の姿勢を各サービスへ反映していくことが重要です。

Ⅲ-2 サービスの質の確保

	第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取組を組織的に行っている。	
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行い、取り組むべき課題を明確にしている。	a・(b)・c
Ⅲ-2-(1)-② 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a・b・(c)
Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法を確立している。	
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法を文書化し、サービスを提供している。	a・(b)・c
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みを確立している。	a・b・(c)
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録を適切に行っている。	
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録を適切に行っている。	(a)・b・c
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制を確立している。	a・b・(c)
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a・(b)・c

特記事項

サービスの質の確保については、定期的な評価が行われていますが、その結果に基づく改善計画の作成には至っていません。今後は課題を明らかにし、改善していく仕組みを確立されることを期待します。

各サービス実施マニュアルについては、法人施設のマニュアルをベースに少しずつマニュアルが整備され、職員に周知されていますが、定期的な見直しまでには至っていません。今後は、見直しも含め、スタンダードな支援を明確にしていくことが求められます。

利用者個々の記録は、統一した様式で、ケース記録として記録され、ミーティングによ

て、利用者の情報を共有しています。今後は、情報開示の方法や利用者情報の流れを明確に
していくことが望まれます。

III-3 サービスの開始・継続

	第三者評価結果
III-3-(1) サービス提供の開始を適切に行っている。	
III-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	a (b) c
III-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a (b) c
III-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	
III-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a (b) c

特記事項

利用希望者についての情報提供は、図や絵が入ったパンフレットやホームページが公開され、見学にも随時対応されています。

サービス開始時には、サービスの内容・利用料などが具体的に示された重要事項説明書によって説明が行われ、契約が取り交わされています。

事業所の変更や就学時の引き継ぎは、引継ぎシートを作成し引継ぎが行われていることが伺うことが出来ましたが、退所後の窓口や地域組織の育成は具体的な取り組みまでには至っていませんでした。

今後は、サービス利用に関するマニュアルの作成など、利用開始と継続に関する手順を明確にしていくことが課題です。

III-4 サービス実施計画の策定

	第三者評価結果
III-4-(1) 利用者のアセスメントを行っている。	
III-4-(1)-① 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	a (b) c
III-4-(1)-② 利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a (b) c
III-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画を策定している。	
III-4-(2)-① サービス実施計画を適切に策定している。	a (b) c
III-4-(2)-② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a (b) c

特記事項

児童発達支援管理責任者を中心にアセスメントシートを用いて、基本情報のほかに家族の要望などを確認したうえで個別支援計画を作成しています。また、モニタリングやケース記録等で利用者の状況を把握し、実施計画どおりにサービスが行われていることを確認する仕組みを確立していますが、作成の過程や手順については明確ではありません。

今後は、個別支援計画の策定と評価の手順を明確にされることによって、ケアマネジメントの流れを明らかにしていくことが望まれます。

評価対象IV 実施する福祉サービスの内容

IV-1 利用者の尊重

	第三者評価結果
IV-1-(1) 利用者の尊重	
IV-1-(1)-① コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫をしている。	a (b)・c
IV-1-(1)-② 利用者の主体的な活動を尊重している。	a (b)・c
IV-1-(1)-③ 利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制を整備している。	(a)・b・c
IV-1-(1)-④ 利用者のエンパワメントの理念にもとづくプログラムがある。	a・(b)・c
IV-1-(2) 利用者の権利擁護	
IV-1-(2)-① 利用者の権利の行使を支援するための具体的な取り組みを行っている。	(a)・b・c
IV-1-(2)-② 虐待(拘束、暴言、暴力、無視、放置、性的いやがらせ等)等の人権侵害について、防止対策を図っている。	a (b)・c
IV-1-(2)-③ 利用者のプライバシー確保のための支援や工夫をしている。	a (b)・c

特記事項

利用者尊重の取り組みについては、図や写真を用いた個別のツールを作成するなど、個々の状態を考慮して、利用者のコミュニケーションを高める取り組みが実施されています。

子どもの自主性を育む支援として、見守り支援が取り入れられ、月1回の買い物学習、長期休みの調理、年2回の園外学習を通じて、個々に応じた支援が伺えました。また、「オープンてくてく」を開催し、施設外の人とも交流できる機会が確保されています。

利用者の権利擁護については、虐待防止策としてマニュアルを整備し、周知していることが伺えますが、虐待に対する全般的な理解にとどまっており、具体的な支援方法の研修には至っていません。

今後は、研修や事例検討を通じて、プライバシーの定義など利用者の権利擁護について施設の考え方を明確にすることによって、仕組みとして確立されることが望まれます。

IV-2 日常生活支援

		第三者評価結果
IV-2-(1) 食事		
IV-2-(1)-①	サービス実施計画に基づいた食事サービスを用意している。	a (b) c
IV-2-(1)-②	食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく、楽しく食べられるように工夫している。	非該当
IV-2-(2) 清潔の保持		
IV-2-(2)-①	利用者の意志を尊重しつつ、利用者の個人的事情に配慮した清潔の保持に努めている。	a (b) c
IV-2-(2)-②	衣類の着替え等が必要な場合の対応は適切である。	a (b) c
IV-2-(3) 排泄		
IV-2-(3)-①	排泄介助は快適に行っている。	a (b) c
IV-2-(3)-②	トイレは清潔で快適である。	a (b) c
IV-2-(4) 健康管理		
IV-2-(4)-①	日常の健康管理は適切である。	a・b (c)
IV-2-(4)-②	必要な時、迅速かつ適切な医療を受けられる。	a (b) c
IV-2-(4)-③	内服薬・外用薬等の扱いは確実に行われている。	a・b (c)

特記事項

日常生活の支援においては、各場面における支援マニュアルを整備し、個人のカや年齢に応じて個別に細かい支援が行われています。

清潔の保持や排泄については、シャワーなど必要に応じて設備が利用できるようになっており、排せつチェック表を活用し、状況に応じた対応がなされています。

緊急時については、地域の医療機関との連携により、必要な対応ができるよう配慮しています。

今後は、日常の健康管理をはじめ感染症や服薬など、施設における健康管理の具体的な方法をマニュアルに明示し、標準化を図られることが望まれます。

IV-3 社会生活支援

IV-3-(1) 余暇・レクリエーション		
IV-3-(1)-①	余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行っている。	a (b) c

特記事項

余暇・レクリエーションについては、多様なレクリエーションプログラムを利用者の希望により選択しています。また、学生等のボランティアを活用した取り組みも伺え、地域の公民館や公園など近隣の資源も活用しています。

今後は、余暇レクリエーションに関する話し合いやアンケート等を充実させることにより、更に子どもの意向を明確にしていくことが期待されます。

IV-4 障害特性支援

IV-4-(1) 障害特性支援		
IV-4-(1)-①	利用者個々の障害の特性に応じた支援を行っている。	(a)・b・c
IV-4-(1)-②	行動障害のある方への特別な支援を行っている。	a (b)・c
IV-4-(1)-③	重複障害のある方への特別な支援を行っている。	a・b・(c)
IV-4-(2) 家族支援		
IV-4-(2)-①	家族に対する支援、助言を行っている。	a (b)・c

特記事項

アセスメントシートや保護者との面談を通して、利用者個々の障害特性を把握しています。また、個々の障害特性についての勉強会が実施されており、特に行動障害のある方の支援においては具体的な個別の配慮が伺えます。しかし、障害の特性に応じた取り組みは個別支援にとどまっており、今後、明確なプログラム化が期待されます。

家族支援については、送迎時にその都度「伝言メモ」をやり取りすることにより、情報の収集や伝達をしています。

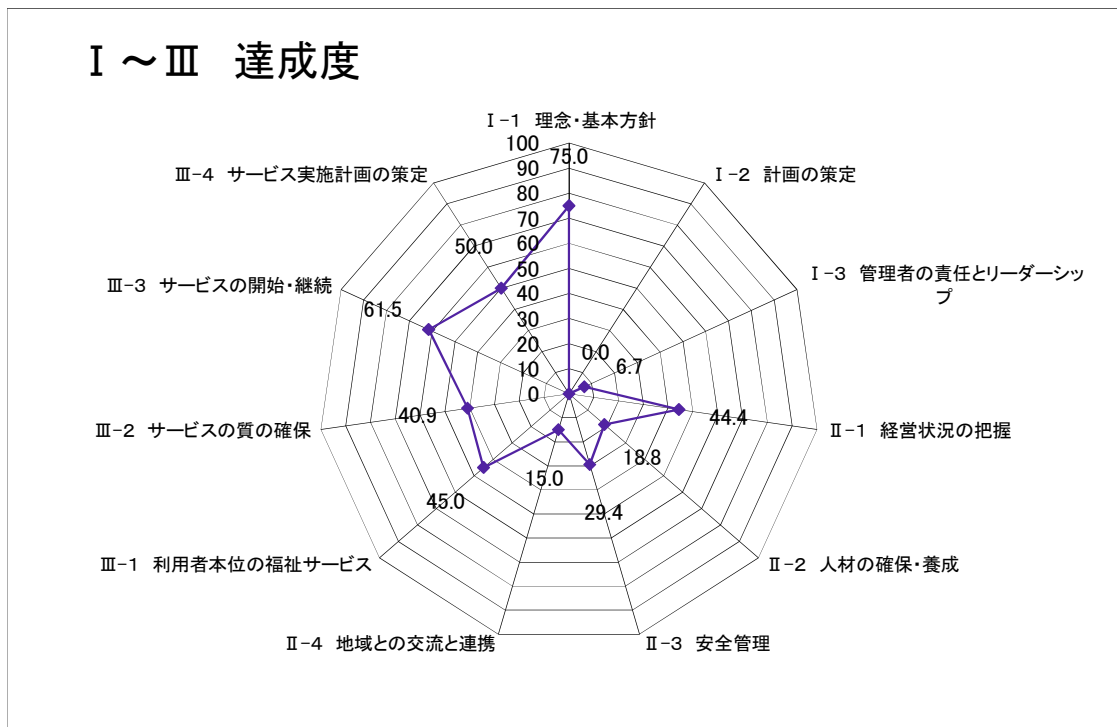
今後は、子どもの療育を通じた情報交換だけでなく、子育て支援の視点から家族支援の位置づけを明確にしていくことが望まれます。

(別紙2)

各評価項目に係る評価結果グラフ

I～III 達成度

	判断基準		達成率(%)
	基準数	達成数	
I-1 理念・基本方針	8	6	75.0
I-2 計画の策定	13	0	0.0
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	15	1	6.7
II-1 経営状況の把握	9	4	44.4
II-2 人材の確保・養成	32	6	18.8
II-3 安全管理	17	5	29.4
II-4 地域との交流と連携	20	3	15.0
III-1 利用者本位の福祉サービス	20	9	45.0
III-2 サービスの質の確保	22	9	40.9
III-3 サービスの開始・継続	13	8	61.5
III-4 サービス実施計画の策定	12	6	50.0
I～III合計	181	57	31.5



IV 達成度

	判断基準		達成率(%)
	基準数	達成数	
1-(1) 利用者の尊重	16	13	81.3
1-(2) 利用者の権利擁護	10	5	50.0
2-(1) 食事	3	2	66.7
2-(2) 清潔の保持	8	5	62.5
2-(3) 排泄	10	5	50.0
2-(4) 健康管理	14	1	7.1
3-(1) 余暇・レクリエーション	4	3	75.0
4-(1) 障害特性支援	12	5	41.7
4-(2) 家族支援	3	1	33.3
IV 合計	80	40	50.0
総合計	261	97	37.2

